



岐阜県内経済情勢

平成29年1月25日

財務省東海財務局
岐阜財務事務所


(問い合わせ先)
TEL (058) 247 - 4112 (財務課)
<http://tokai.mof.go.jp/gifu.htm>

1. 総論

岐阜県内経済は、一部に弱さがみられるものの、回復しつつある。








先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、景気が着実に回復していくことが期待される。
ただし、海外景気の動向に注視していく必要がある。

【総括判断】

前回(28年10月判断)	今回(29年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復の動きが続いている	一部に弱さがみられるものの、回復しつつある		個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる。 生産は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる。 雇用情勢は、着実に改善している。

(注) 29年1月判断は、前回28年10月判断以降、29年1月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

【各項目の判断】

項目	前回(28年10月判断)	今回(29年1月判断)	前回比較
個人消費	緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる	一部に弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる	
生産	一部に弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる	一部に弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	着実に改善している	着実に改善している	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
設備投資	28年度通期は増加見通し	28年度通期は増加見込み	
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	
企業収益	28年度通期は減益見通し	28年度通期は減益見込み	

【その他の項目】

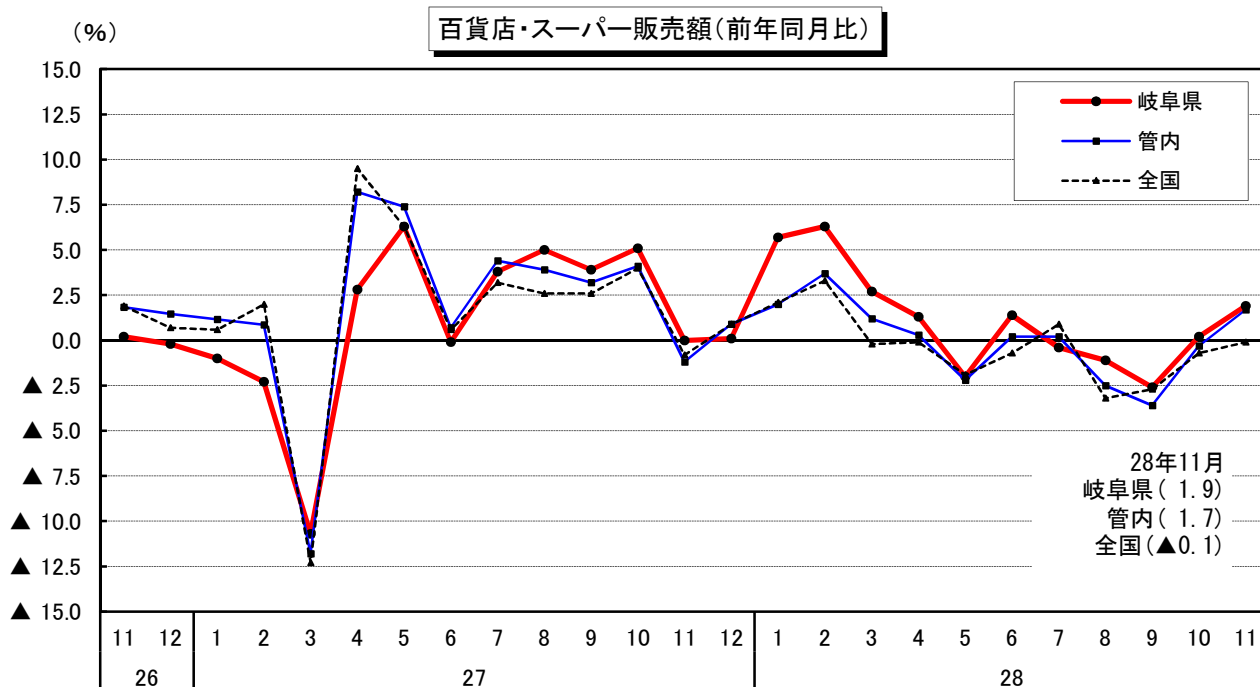
- 企業の景況感・・・全産業の現状判断(28年10-12月期)は「下降」超。
- 消費者物価・・・このところ前年比マイナスとなっている。
- 企業倒産・・・件数、負債総額ともに前年を上回っている。

2. 各論 ※グラフ中の「管内」は、特に「注」がない限り東海財務局管内(愛知、岐阜、三重、静岡の4県)を指す。

【個人消費】一部に弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる

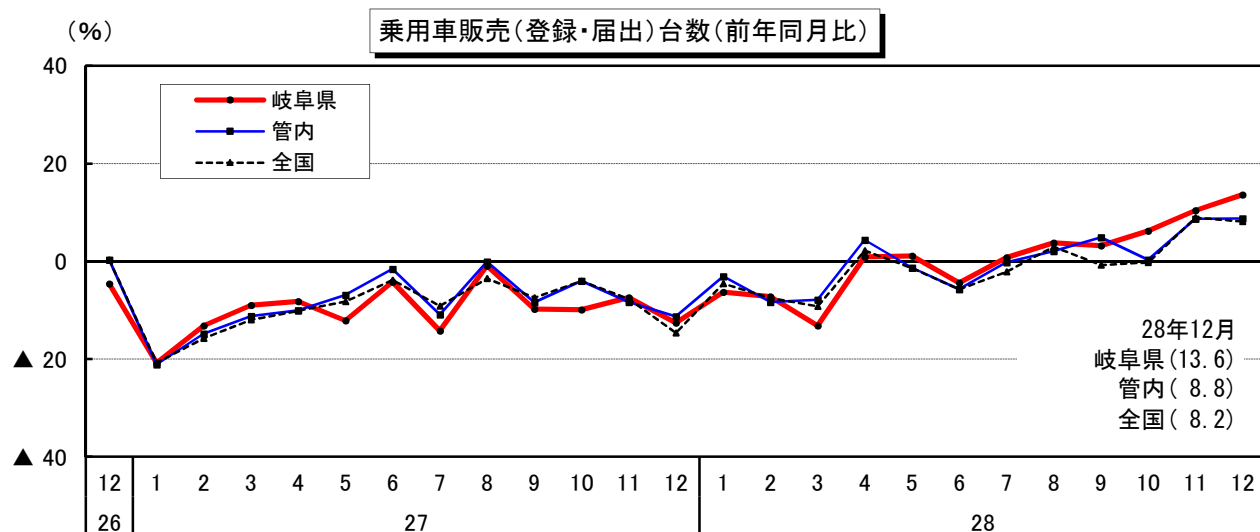
百貨店・スーパー販売では、衣料品は前年を下回っているものの、主力の飲食料品が前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

乗用車販売台数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車のいずれも前年を上回っており、動きに力強さがみられる。



(資料)経済産業省

(注1)全店ベース (注2)管内とは愛知、岐阜、三重、静岡、石川、富山の6県



(資料)日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

【生産】一部に弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる

（輸送機械）

自動車は持ち直しつつあり、自動車部品も緩やかな持ち直しの動きがみられることから、全体としては持ち直しつつある。

（はん用・生産用・業務用機械器具）

金属工作機械は増加しているものの、油圧機器、給排水栓類はおおむね横ばいとなっていることから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

（化学）

大宗を占める医薬品を中心におおむね横ばいとなっている。

（電気機械）

電子回路基板はパソコン向けがおおむね横ばいとなっているものの、スマートフォン向けが弱含んでいることから、全体では弱含んでいる。

（プラスチック）

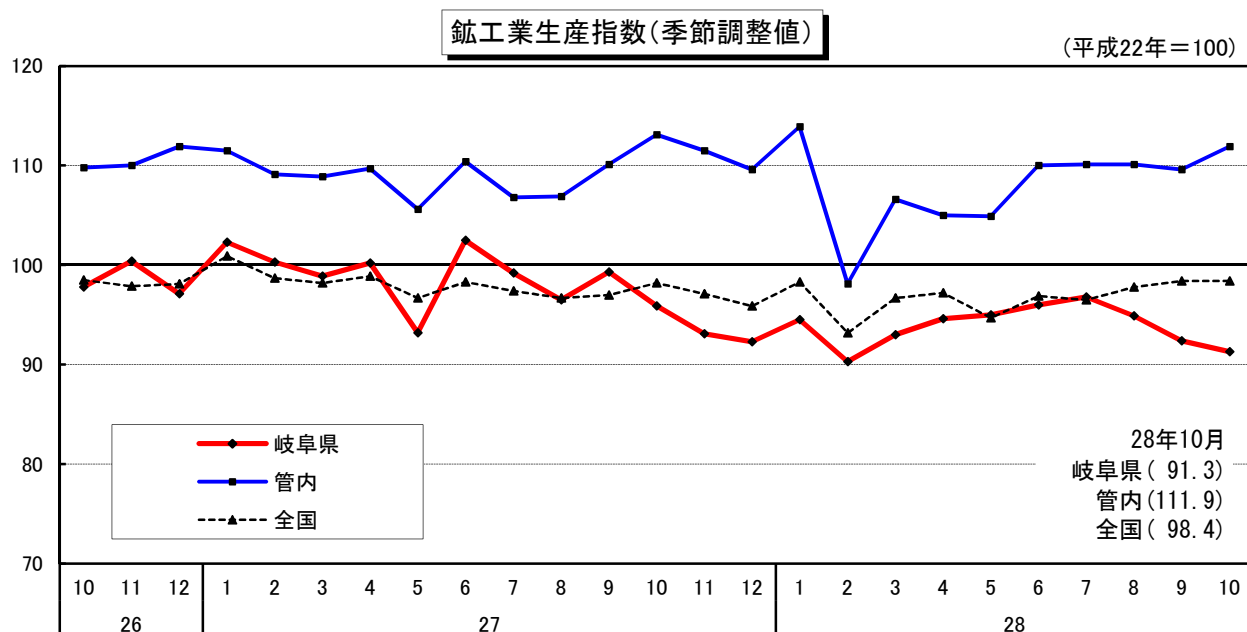
容器、フィルム、機械器具部品ともに緩やかな持ち直しの動きがみられることから、全体では緩やかな持ち直しの動きがみられる。

（窯業・土石）

セラミックフィルタ、モザイクタイルともにおおむね横ばいとなっていることから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

（金属製品）

ボルト・ナットはおおむね横ばいとなっている。

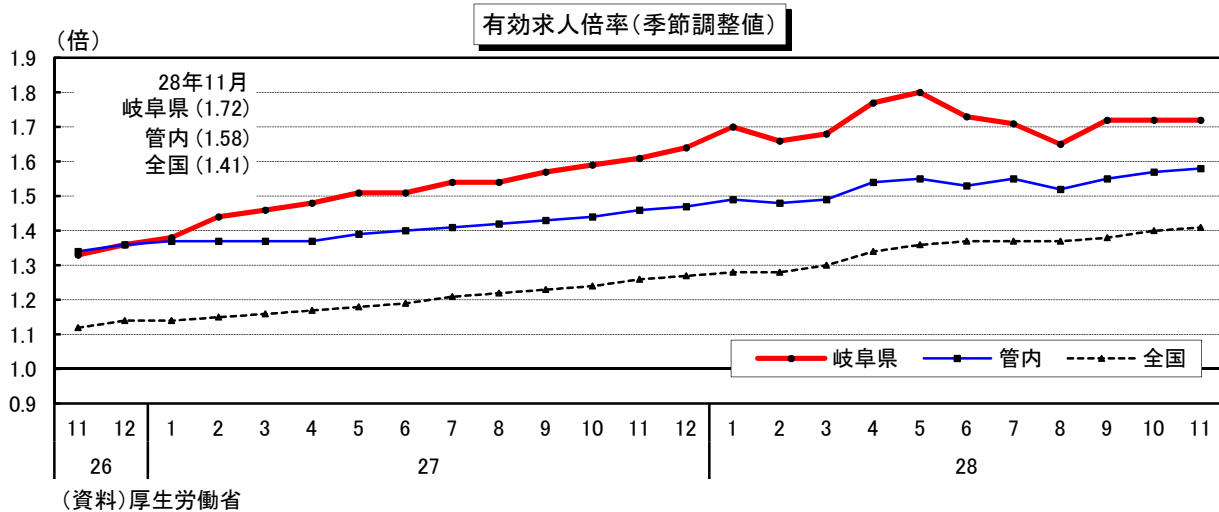


(資料)岐阜県、中部経済産業局、経済産業省

(注)管内とは、愛知、岐阜、三重の3県

【雇用情勢】 着実に改善している

有効求人倍率は、高い水準を維持している。
所定外労働時間は、前年を下回っている。



3. 県内景気に関する地域の声

(個人消費)

- ・前年と比べて気温が高かった10月は、季節衣料品の動きが鈍かったが、婦人用のマフラー等の防寒アイテムに動きがあった。また、11月は紳士、婦人ともにコートの販売が好調であった。(百貨店・スーパー)
- ・天候不順の影響により野菜価格が高騰し、買上点数は減少したが売上は増加した。また、比較的価格の安定した冷凍野菜等の売上が好調であった。(百貨店・スーパー)
- ・暖冬の影響で季節家電の動きが鈍かった一方で、脱衣場や浴室を温める家電が売上を少しずつ伸ばしてきている。(家電量販店)
- ・新型車投入効果により販売台数が前年を上回っているほか、ウィンタースポーツのシーズンということもあり、四輪駆動のSUVの販売が好調である。(自動車販売店)

(生産)

- ・海外の一部において受注減となっているものの、国内向けは安定して推移しており、生産台数に大きな変動はない。(輸送機械メーカー)
- ・国内、EU及び北米において航空機関連は引き続き好調。また、新商品を出展した見本市では企業からの引き合いがあったことから、今後の受注増加に期待している。(工作機械メーカー)

(雇用情勢)

- ・アルバイトについて、雇用確保策として時給を引き上げたものの、効果は薄く引続き不足している状況となっていることから、派遣社員の割合が増え人件費が高騰している。(百貨店・スーパー)
- ・期間社員の定着率向上のため、一定期間継続して勤務した場合に支給する報奨金の増加を検討している。(輸送機械メーカー)

調査の概要

1. 調査内容 前回公表日（平成28年10月25日）以降の概況
2. 調査時期 平成28年12月～平成29年1月
3. 調査対象 県内主要企業及び各種団体
4. 調査方法 各種統計資料の分析、面接調査による。